

旭

印刷を支え加工を活かす

米村 侑己

工場本部 瓜破工場 中綴じ部門

2013年4月、旭紙工株式会社に新卒で入社した米村侑己さん。工場本部、瓜破工場の中綴じ部門で働いています。どのような思いで日頃の仕事に臨んでいるのか、米村さんのこだわりや目標について聞きました。



現在の業務内容について教えてください。

中綴じ部門で機械のセット作業や検品作業をしています。以前は日勤だったのですが、異動してからはずっと夜勤の担当です。業務内容や働く人の数は、日勤と夜勤でどちらもほとんど変わりません。ただ、日勤だった頃はベテランの先輩が多く、なかあれば時間を置かずお手助けしてもらえたため、きちんと指示通りに作業をこなすことに集中していました。

夜勤のメンバーのなかでは、比較的经验を積んでいる立場です。そのため、問題があったときには責任をもって解決にあたらなければなりません。そうした自覚をもち、業務に臨んでいます。外国人研修生の方も多く、こちらから指示を出して動いてもらう機会もよくあるため、彼らに理解してもらいやすい伝え方や教え方などを考えて指示を出すようにしています。

長く仕事をしているなかで、大きな失敗をしてしまった経験はありますか。

入社して2年目か3年目の、だい

は印刷物を綴じる針金を切るためのものです。巻かれてひとかたまりになった針金が機械にセットされていて、この針金を使い、印刷された紙をホツキキスでとめる要領で綴じていきます。

針金を切るのは紙に打った後で、そこが一番危険な場所。ちょっとした不注意が事故につながる可能性も十分にありえるため、安全対策も考慮に入れながら、今後も引き続き、慎重な作業を心がけていきます。

夜勤担当となつてからは、特に経験者としての立場を自覚し、責任をもって業務に励んでいるという米村さん。これからも誠心誠意仕事に向き合い、多くのことを吸収していきましょう。



ごしてしまったのかもしれない。失敗の原因は、私の油断にもあったと思うので、その後はタイミングを見ながら確認するように注意を払っています。

——プライベートでは、どのように過ごされていますか。

休みの日はゲームをしたり、映画を見たりしています。特に好きなのは、ロールプレイング系のゲームです。

帰宅後は、食事をしっかりとる時間でもあります。食事は一日に一回きりです。夜勤でも食事休憩の時間はあるのですが、口にするのは飲み物だけで、大抵はお茶を飲んでい



ぶ仕事に慣れてきた頃、最大の失敗を経験しました。車のカタログ製作でサンプル作りを担当した際、いつも通りの状態で機械にセットし、確認をしながら作業を進めていたつもりだったのですが、実際に出来上がってみると、たくさんの傷がついていたのです。結局、すべてやり直しとなつてしまい、上司に朝方まで直しの作業を行ってもらった事となつてしまいました。

傷がついてしまう原因の多くは機械にあるため、注意深くチェックしています。チェックの段階で特に問題がなくても、その後、どこかのタイミングで傷がついてしまう場合も考慮し、入念に確認する必要がありますが、そのときは確認不足で見過



——今後の仕事に対する意気込みや目標を教えてください。

ます。時々、「なにか食べないの?」と周りの人から聞かれますが、健康やダイエットにこだわっているわけでもなく、眠くなるから食べないだけです。体調不良になるようなことも特になく、自然とこうなっていました。休憩時間になにも食べない人は、少数ですが、他にも見かけます。きっと、私と似ている体質なのかもしれません。

機械を扱う作業に携わっている以上、怪我をする可能性とは常に隣り合わせです。中綴じ部門で扱う機械では、刃物も使用しています。用途

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

設備紹介

— オートローダー —



製本における中綴じの工程で、紙を配置する作業員の負担を軽減するオートローダー。快適に、かつ効率良く業務を進めるために活躍しています。一方で、機械作業ならではの苦労もあるようで……。ハイクオリティな商品製作のために、新しいテクノロジーを活用しようと試行錯誤されている、瓜破工場の山野さんにお話をお聞きしました！



私が紹介します！

工場本部 瓜破工場
中綴じ部門 副工場長
やまの ひろゆき
山野 博之さん

重量物も
ラクラク運搬

Q.どのような機械なのでしょう？

製本における中綴じの工程で、本のページとなる紙を機械に積み込む際に使用する機械です。紙といっても、本になるとその量は何十～何百ページになることもあるため、それを手作業でセットすると作業員の腕や腰に重大な負担がかかってしまいます。しかし、オートローダーがあれば用紙を上下に運んでくれるため、作業員がしゃがんだり、持ち上げたりしなくても、中綴じ機にまで持っていくことができます。また、手作業よりも運べる制限が大きいので、一気に積み込むことで作業効率もあげられます。

手作業から
機械へ

免許は
不要！

機械ならではの
苦労

効率アップに
向けて

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか？

ラインで導入しているオートローダー4台のうち、3台がいわみ製で、時期ははっきりと分かっていませんが中古で譲り受けたものになります。最近は韓国製のを1台新しく導入しており、フルで稼働させる前にテスト運用をしている最中です。購入してから約1年半しか経っておらず、まだ機械での作業に慣れていない部分が多いですが、今後も前向きに活用していきたいと考えています。



Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

資格や免許は必要ありません。しかし、運用できる製品は限られています。例えば印刷会社から予め用意された隣辺折り裁ちのものには使用できても、当社で断裁するものにはオートローダーは使わず、手動で積み込みを行っています。

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか？

元々中綴じの作業は2～3人で回していました。オートローダーの活用によって、その人数を減らすところまではいきませんが、作業員の体への負担はかなり軽減したと思います。しかし、機械である以上使い方を覚えるのが難しかったり、紙という繊細な素材を扱うからこそ、細かい調整に苦勞することが多くあったりします。本はかなりの冊数がバンドで束ねられているため、紙にくせがついてしまったり、折り目が微妙にずれてしまったりして、思うような綺麗な仕上がりにならないことも。経験を積み重ねて、使い方のコツを得ていく必要があると思います。



Q.今後の目標

やはり、作業の回転率をあげて、より多くの商品を製本するというのが何よりの目標になってくると思います。利益を確保するためにも、オートローダーを上手に使うことで、中綴じの効率をあげていくことが大切なのではないでしょうか。コロナ禍もあって調整が難しいことも多くありますが、まずは新しい技術の扱いに慣れていきたいと思っています。